

## 「民間介護保険に関する意識等調査」結果概要

株式会社明治安田生活福祉研究所（社長 服部秀昭）は、2013年3月、全国の20歳～79歳の男女4,041人を対象に、民間介護保険をテーマとする調査を実施しました。

加入している民間介護保険に対する意識、加入していない理由・今後の加入意向・加入条件、介護に対する想定・準備などについて、この調査で明らかになった最新の状況をご紹介します。

### < 主な内容 >

< ページ >

<b>【民間介護保険加入者の状況】</b>	
◆ 加入時の重視ポイントは「保障が一生続くこと」「保険料が安いこと」が最多	4
◆ 保険の内容に対する不満は「保険料が高い」が最多 —— 加入時に保険料の安さを重視しなかった人に不満が多い傾向	4
◆ 介護給付金額・保険金額「小さい・やや小さい」&保険料「高い・やや高い」と感じている人が2割 —— 保険会社がどのように対応するかが問われる	5
<b>【民間介護保険未加入者の状況】</b>	
◆ 民間介護保険の認知度はまだ低い —— 「あることを知らなかった」3割、「内容はよく知らない」6割	7
◆ 主な未加入理由は「経済的余裕がない」「保険料が高い」「仕組みがわからない」	7
◆ 過半数が民間介護保険への加入意向あり —— 加入条件は「経済的余裕」「保険料」「民間介護保険に対する理解」がポイント	8
◆ 加入する場合の商品に関する重視ポイントは「保険料が安いこと」「保障が一生続くこと」	8
◆ 加入意向がない人も、公的介護保険の自己負担が増えれば3割が態度を変更	9
<b>【民間介護保険加入者と未加入者の比較】</b>	
◆ 加入者は未加入者より、自分の要介護期間を長く・介護費用を多く想定	10
◆ 民間介護保険以外の介護に対する経済的準備はともに預貯金が最多	10
◆ 介護に対する経済的準備をしていない人の4割は今後も準備する意思なし	11
◆ 加入者は未加入者より公的介護保険制度に関する知識あり	12

ご照会先	㈱明治安田生活福祉研究所 生活設計研究部 渡辺・森	電話：03 (3283) 9297 FAX：03 (3201) 7837 Eメール：rbj@myilw.co.jp
------	------------------------------	--

## ＜ 調査の概要 ＞

- (1) 調査対象： 全国の 20 歳以上 79 歳以下の男女で、民間介護保険の加入者（被保険者本人）および未加入者
- (2) 調査方法： WEB アンケート調査（株式会社マクロミルの登録モニター対象）
- (3) 調査時期： 2013 年 3 月 15 日～3 月 21 日
- (4) 回収数： 4,041 人（うち加入者 1,975 人、未加入者 2,066 人）
- (5) 対象の属性

（上段：人数[人]、下段：加入者計または未加入者計に対する割合[%]）

	加入者			未加入者		
	男性	女性	計	男性	女性	計
20歳代	81 (4.1%)	62 (3.1%)	143 (7.2%)	152 (7.4%)	148 (7.2%)	300 (14.5%)
30 "	297 (15.0%)	182 (9.2%)	479 (24.3%)	189 (9.1%)	191 (9.2%)	380 (18.4%)
40 "	182 (9.2%)	270 (13.7%)	452 (22.9%)	182 (8.8%)	173 (8.4%)	355 (17.2%)
50 "	288 (14.6%)	214 (10.8%)	502 (25.4%)	167 (8.1%)	175 (8.5%)	342 (16.6%)
60 "	99 (5.0%)	185 (9.4%)	284 (14.4%)	198 (9.6%)	206 (10.0%)	404 (19.6%)
70 "	65 (3.3%)	50 (2.5%)	115 (5.8%)	130 (6.3%)	155 (7.5%)	285 (13.8%)
計	1,012 (51.2%)	963 (48.8%)	1,975 (100.0%)	1,018 (49.3%)	1,048 (50.7%)	2,066 (100.0%)

【注】 割合は小数第二位を四捨五入して表記しているため、各セルの数値の合計と計欄とが一致しない場合がある。

### (6) 標本設計

本調査では、加入者全体・未加入者全体における回答の比率の標本誤差が最大で約 2% となるよう、加入者・未加入者を 2,000 人ずつ調査することにしました。その上で、総務省「平成 22 年国勢調査」および(公財)生命保険文化センター「平成 22 年 生活保障に関する調査」の結果から、加入者・未加入者の性・年齢階級別構成率<sup>(※)</sup>を算出し、それぞれの割当数を決定しました。

(※) 70 歳代の構成率算出においては、60 歳代の民間介護保険加入率を準用しました。

加入者 70 歳代女性の回収数は割当数を 86 人下回りましたが、その他の属性ではすべて割当数を満たしました。

### (7) 統計解析

本調査が標本調査であることから、差や傾向が有意（誤差ではなく、統計学的に意味があると言える）か否かを統計学的検定により分析しました。検定の際の有意水準（本当は差や傾向はないのに、差や傾向があると誤って判断してしまう確率）は、一般的に用いられることが多い 5% としました。

## < 目次 >

1. 民間介護保険加入者の状況 .....	4
(1) 加入時に重視したポイント .....	4
(2) 加入している保険の商品内容に対する不満 .....	4
(3) 加入している保険の介護給付金額・保険金額と保険料に対する感想 .....	5
2. 民間介護保険未加入者の状況 .....	7
(1) 民間介護保険を知っているかどうか .....	7
(2) 加入していない理由 .....	7
(3) 今後の加入意向・加入条件 .....	8
(4) (加入意向がある人に対し) 加入しようとする場合に商品について重視するポイント ....	8
(5) (加入意向がない人に対し) 公的介護保険の自己負担が現在より増加した場合の加入意向 ...	9
3. 民間介護保険加入者と未加入者の比較 .....	10
(1) 想定している要介護期間と介護費用 .....	10
(2) 介護に対する現在の経済的準備・今後の準備の意向 .....	10
(3) 公的介護保険制度に関する知識 .....	12

## 1. 民間介護保険加入者の状況

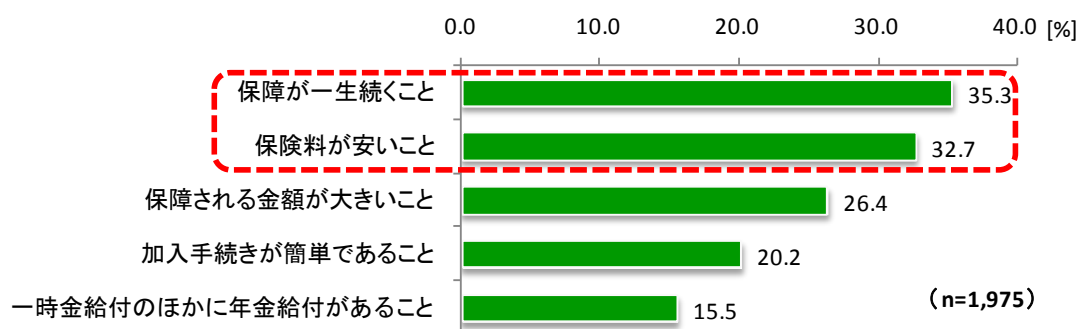
- 加入時の重視ポイントは「保障が一生続くこと」「保険料が安いこと」が共に3割強で最多
- 保険の内容に対する不満は「保険料が高い」が4割強で最多  
—— 加入時に保険料の安さを重視しなかった人に不満が多い傾向
- 加入者の約2割が、介護給付金額・保険金額を「小さい・やや小さい」と感じながら、保険料を「高い・やや高い」と感じている

### (1) 加入時に重視したポイント

民間介護保険に加入している人に対し、加入時に重視したポイントを尋ねたところ、「保障が一生続くこと」「保険料が安いこと」が共に3割強で最多でした（これら2項目の割合の差は有意ではありませんでした）。次いで3位から5位は、「保障される金額が大きいこと」「加入手続きが簡単であること」「一時金給付のほかに年金給付があること」でした。

加入時には、民間介護保険は終身保障で保険料が安いことが特に重視されているようです。

図表 1-1 加入時に重視したポイント（複数回答、上位5位まで表示）

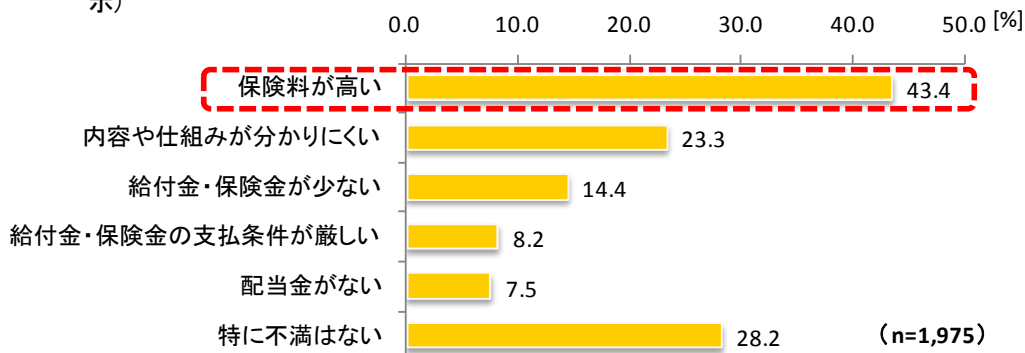


### (2) 加入している保険の商品内容に対する不満

加入している民間介護保険の商品内容に対する不満を尋ねたところ、「特に不満はない」が約3割であり、何らかの不満を持っている人が約7割いました。

不満の内容は「保険料が高い」が4割強で最も多く、次いで2位「内容や仕組みが分かりにくい」、3位「給付金・保険金が少ない」と続き、「給付金・保険金の支払条件が厳しい」「配当金がない」が1割弱でした（これら2項目の割合の差は有意ではありませんでした）。

図表 1-2-1 加入している保険の商品内容に対する不満（複数回答、「特に不満はない」以外の上位5位まで表示）

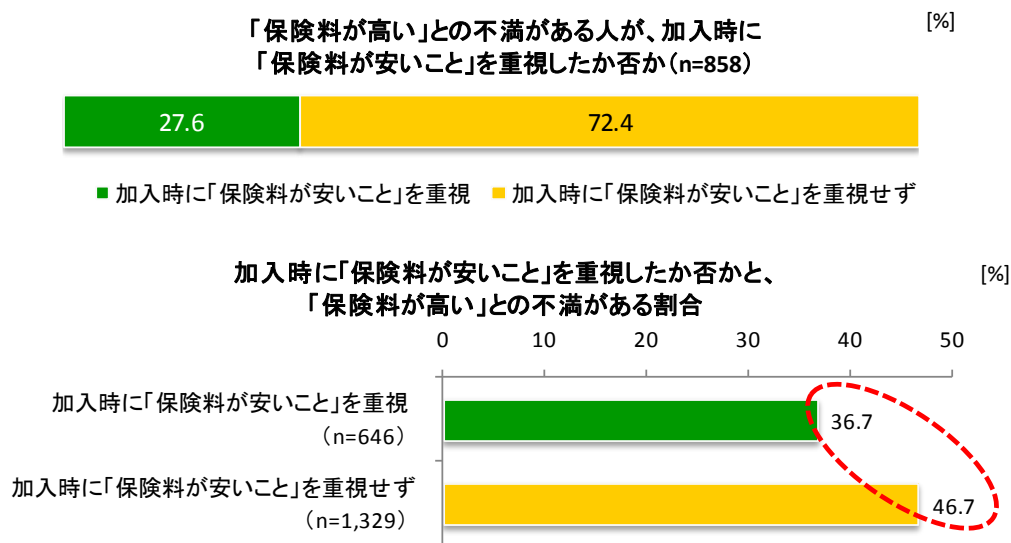


加入時に「保険料が安いこと」を重視したか否かと、「保険料が高い」との不満があるか否か

との関連を調べたところ、「保険料が高い」との不満がある人の約7割が加入時に「保険料が安いこと」を重視していませんでした。また、加入時に「保険料が安いこと」を重視した人は、重視しなかった人より「保険料が高い」と不満を持つ人の割合が有意に低い傾向が見られました。このことから、加入時に保険料の安さを重視しなかったことが、保険料が高いという不満につながっていると言えそうです。

ただ、加入時に「保険料が安いこと」を重視した人の中でも、保険料が高いという不満がある人が4割弱います。これは、①保険料の安さを重視して加入したが、加入後に他の民間介護保険商品と比較したところ保険料が高いと感じた、②複数の民間介護保険を比較しどれも保険料が高いと思ったが、その中では安いものに加入した、といったことが原因ではないかと考えられます。

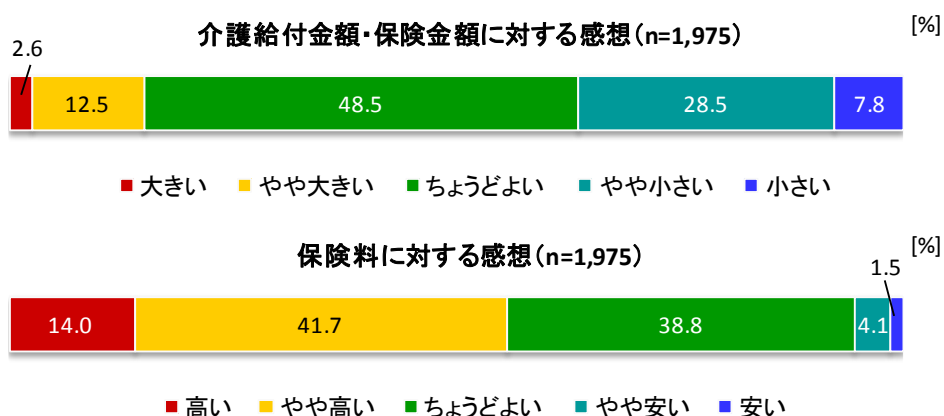
図表 1-2-2 加入時の重視ポイント「保険料が安いこと」と商品内容に対する不満「保険料が高い」との関連





### (3) 加入している保険の介護給付金額・保険金額と保険料に対する感想

加入している民間介護保険の介護給付金額・保険金額と保険料に対する感想を尋ねたところ、「ちょうどよい」を除くと、介護給付金額・保険金額は「やや小さい」「小さい」の方に、保険料は「やや高い」「高い」の方に偏る傾向がみられました。これは、介護給付金額・保険金額を「やや小さい」「小さい」と感じながら保険料を「やや高い」「高い」と感じている人が一定数いることを意味します。

図表 1-3-1 加入している保険の介護給付金額・保険金額と保険料に対する感想





実際、介護給付金額・保険金額に対する感想と保険料に対する感想とのクロス集計を行なったところ、介護給付金額・保険金額を「小さい」と感じながら保険料を「高い」と感じている人、および介護給付金額・保険金額を「やや小さい」と感じながら保険料を「やや高い」と感じている人の割合が有意に高いという傾向が見られました（図表 1-3-2 部分）。

これらの人を含めた、介護給付金額・保険金額を「小さい・やや小さい」と感じながら保険料を「高い・やや高い」と感じている人たち（図表 1-3-2 部分、全体の 21.0%を占める）が加入している民間介護保険に不満を持っているのであれば、金額の面に限って言えば、保険会社は現状の介護給付金額・保険金額と保険料のバランスのまま金額を上下させるだけでは対応できないと考えられます。付帯している他の給付金額や解約返戻金を抑えることで保険料を安くしたり、介護給付金・保険金以外の点で満足度を高めるオプションを用意したりする、といったことも必要になると考えられます。

図表 1-3-2 介護給付金額・保険金額に対する感想と保険料に対する感想のクロス集計表

			保険料に対する感想					合計
			高い	やや高い	ちょうどよい	やや安い	安い	
額介 に護 対給 す付 る金 感額 ・保 険金	大きい	度数	40	8	2	2	0	52
		%	76.9%	15.4%	3.8%	3.8%	0.0%	100.0%
	やや大きい	度数	48	167	24	5	3	247
		%	19.4%	67.6%	9.7%	2.0%	1.2%	100.0%
	ちょうどよい	度数	76	346	514	18	4	958
		%	7.9%	36.1%	53.7%	1.9%	0.4%	100.0%
やや小さい	度数	74	255	182	46	6	563	
	%	13.1%	45.3%	32.3%	8.2%	1.1%	100.0%	
小さい	度数	38	48	44	9	16	155	
	%	24.5%	31.0%	28.4%	5.8%	10.3%	100.0%	
合計	度数	276	824	766	80	29	1,975	
	%	14.0%	41.7%	38.8%	4.1%	1.5%	100.0%	

 : 割合が有意に高いセル  
 : 割合が有意に低いセル

## 2. 民間介護保険未加入者の状況

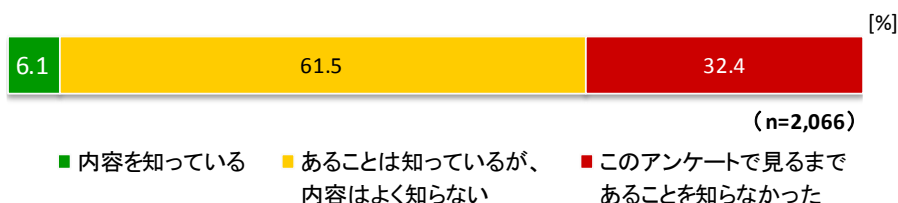
- 民間介護保険が「あることを知らなかった」3割、「内容はよく知らない」6割
- 過半数が民間介護保険への加入意向あり
- 未加入理由・加入条件に共通して、「経済的余裕」「保険料の額」「民間介護保険についての理解」が関係
- 加入する場合の重視ポイントはまず「保険料が安いこと」、次に「保障が一生続くこと」
- 現在加入意向がない人でも、3割弱が態度を変える可能性あり  
—— 公的介護保険の自己負担が現在より増加した場合

### (1) 民間介護保険を知っているかどうか

民間介護保険に加入していない人に対し、民間介護保険を知っているかどうか尋ねたところ、「このアンケートで見るとあることを知らなかった」と回答した人が3割強、「あることは知っているが、内容はよく知らない」と回答した人が約6割でした。

民間介護保険はまだよく知られておらず、保険会社はその存在や内容について広く伝えていく必要があります。

図表 2-1 民間介護保険を知っているか

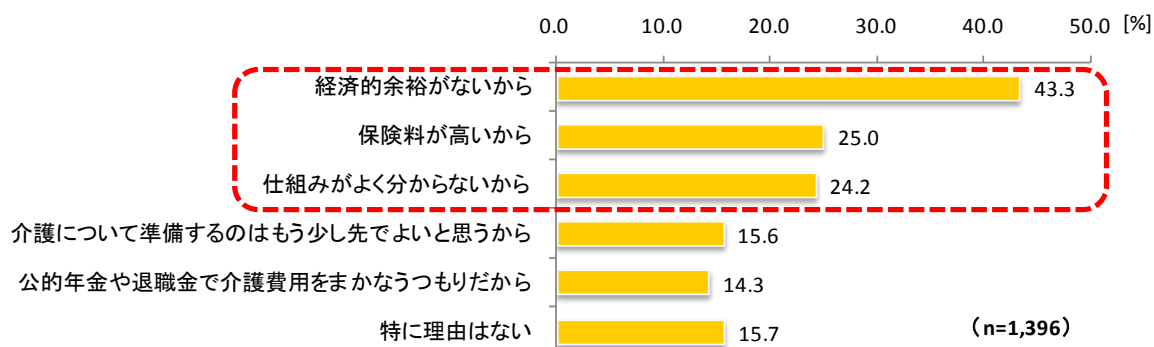


### (2) 加入していない理由

民間介護保険について「内容を知っている」「あることは知っているが、内容はよく知らない」と回答した人に、加入していない理由を尋ねたところ、「経済的余裕がないから」が最も多く4割強、次いで「保険料が高いから」「仕組みがよく分からないから」（これら2項目の割合の差は有意ではありませんでした）、その次に「特に理由はない」「介護について準備するのはもう少し先でよいと思うから」「公的年金や退職金で介護費用をまかなうつもりだから」が続きました（これら3項目の割合の差も有意ではありませんでした）。

経済的余裕や保険料といった経済的理由のほか、仕組みがよく分からないことも加入していないこと有力な理由となっています。このことから、保険会社は民間介護保険の内容について詳しく伝えていく必要があると言えます。

図表 2-2 加入していない理由（複数回答、上位5位まで〔同順位により6項目〕表示）



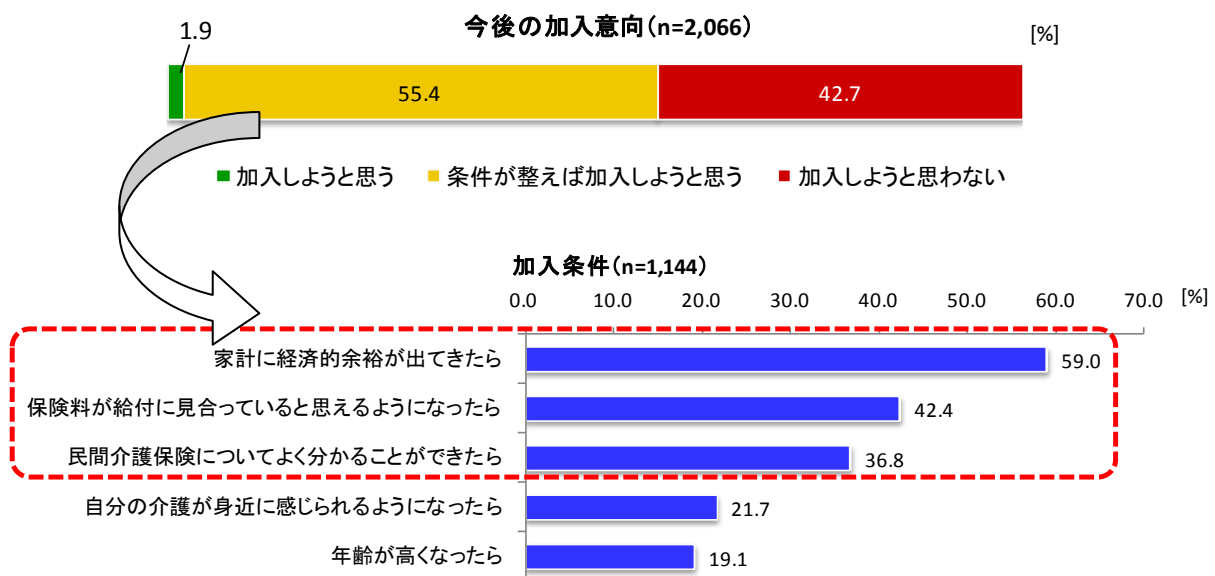
### (3) 今後の加入意向・加入条件

今後、民間介護保険に加入しようと思うかどうかを尋ねたところ、「条件が整えば加入しようと思う」との回答が過半を占めました。一方、端的に「加入しようと思う」と回答した人はわずかでした。

「条件が整えば加入しようと思う」と回答した人に対し、どのような条件が整えば加入しようと思うかを尋ねたところ、「家計に経済的余裕が出てきたら」が約6割で最も多く、次いで2位「保険料が給付に見合っていると思えるようになったら」、3位「民間介護保険についてよく分かることができたら」と続き、「自分の介護が身近に感じられるようになったら」「年齢が高くなったら」が約2割でした（これら2項目の割合の差は有意ではありませんでした）。

加入していない理由と同じく、経済的余裕や保険料といった経済的理由を挙げる人が多いですが、民間介護保険についてよく分かることができることも有力な条件となっています。このことから、保険会社は民間介護保険の内容について詳しく伝えていく必要があると言えそうです。

図表 2-3 今後の加入意向・加入条件（複数回答、上位5位まで表示）



### (4) (加入意向がある人に対し) 加入しようとする場合に商品について重視するポイント

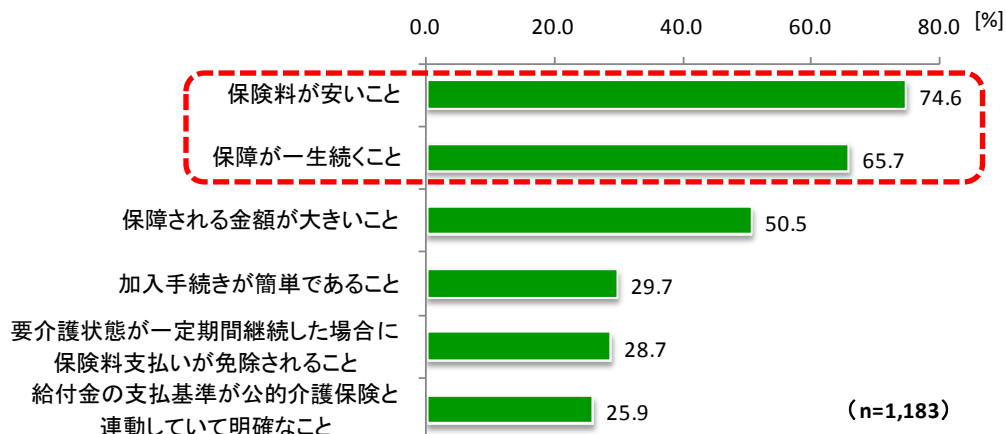
民間介護保険に「加入しようと思う」「条件が整えば加入しようと思う」と回答した人に対し、加入しようとする場合に商品について重視するポイントを尋ねたところ、「保険料が安いこと」が7割強で最も多く、2位「保障が一生続くこと」、3位「保障される金額が大きいこと」と続き、「加入手続きが簡単であること」(①)・「要介護状態が一定期間継続した場合に保険料支払いが免除されること」(②)・「給付金の支払基準が公的介護保険と連動していて明確なこと」(③)が3割弱でした(①と③との割合の差は有意でしたが②との割合の差は有意ではなく、②と③との割合の差は有意ではありませんでした)。

民間介護保険に加入している人が加入時に重視したポイント (p. 4 1 (1)) と同じく、終身保障で保険料が安いことが特に重視されています。また、保障される金額の大きさや加入手続きが簡単であることも、同様に重視されています。一方で、保険料が安いことがより重視されたり、年金給付があることよりも要介護状態の継続で保険料支払いが免除されることが重視されたりするといった点は異なります。加入前の意識と実際に加入する際の行動は、おおむね一致してい



るものの細かい点において異なる可能性があります。

図表 2-4 加入しようとする場合に重視するポイント（複数回答、上位5位まで〔同順位により6項目〕表示）

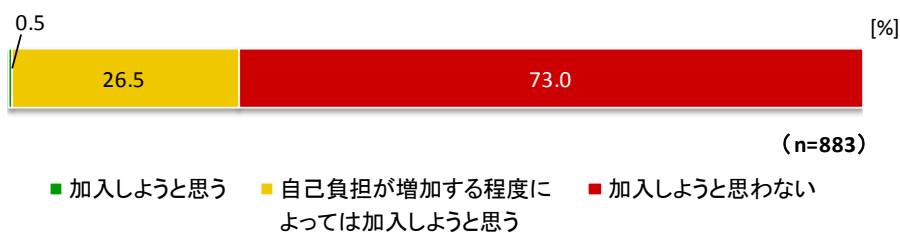


(5) (加入意向がない人に対し) 公的介護保険の自己負担が現在より増加した場合の加入意向

民間介護保険に「加入しようと思わない」と回答した人に対し、仮に公的介護保険の自己負担割合が1割から引き上げられたり利用限度額が少なくなったりした場合、民間介護保険に加入しようと思うかどうかを尋ねました。その結果、「加入しようと思わない」が7割強、「自己負担が増加する程度によっては加入しようと思う」が3割弱でした。

民間介護保険に加入しようと思わない人は、公的介護保険の自己負担が現在より増加してもなお加入しようと思わない傾向が強いです。ただ、増加の程度によっては加入しようと思う人が3割弱存在することから、今後の公的介護保険制度の変化により、民間介護保険の市場がある程度拡大する可能性はありそうです。

図表 2-5 公的介護保険の自己負担が現在より増加した場合の加入意向



### 3. 民間介護保険加入者と未加入者の比較

- 加入者は未加入者より、自分の要介護期間を長く・介護費用を多く想定
- 民間介護保険以外の介護に対する経済的準備はともに預貯金が最多、割合に有意差なし  
—— ただし、加入者は未加入者より預貯金以外の手段で準備している割合が高い
- 介護に対する経済的準備を現在していない人の4割弱は、今後も何も準備する意思なし
- 加入者は未加入者より公的介護保険制度に関する知識あり

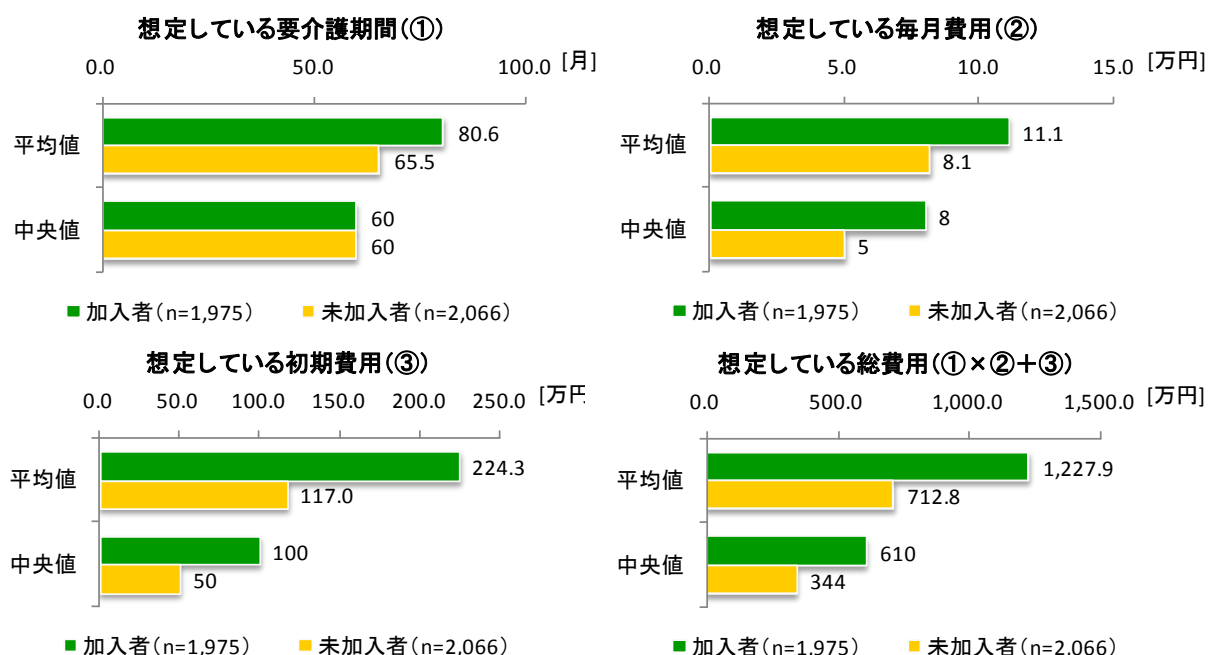
#### (1) 想定している要介護期間と介護費用

民間介護保険に加入している人と加入していない人に対し、自分がもし要介護状態になった場合にどれくらいの期間介護を受けることになると思うか、公的介護保険の給付範囲外で自己負担しなければならない額はどれくらいだと思うか、について尋ねました。その結果、加入している人の方が加入していない人より有意に、要介護期間は長く、費用は多く想定していました。

【注】要介護期間の中央値は加入者・未加入者とも60ヵ月ですが、どちらも中央値を回答した人が複数存在し、また加入者は未加入者より中央値超の回答が多く中央値未満の回答が少ないため、加入者・未加入者で有意な差が生じています。

要介護期間を長く・介護費用を多く想定する傾向がある人が、介護に伴う経済的負担に備えて民間介護保険に加入した可能性が考えられます。

図表 3-1 想定している要介護期間と介護費用

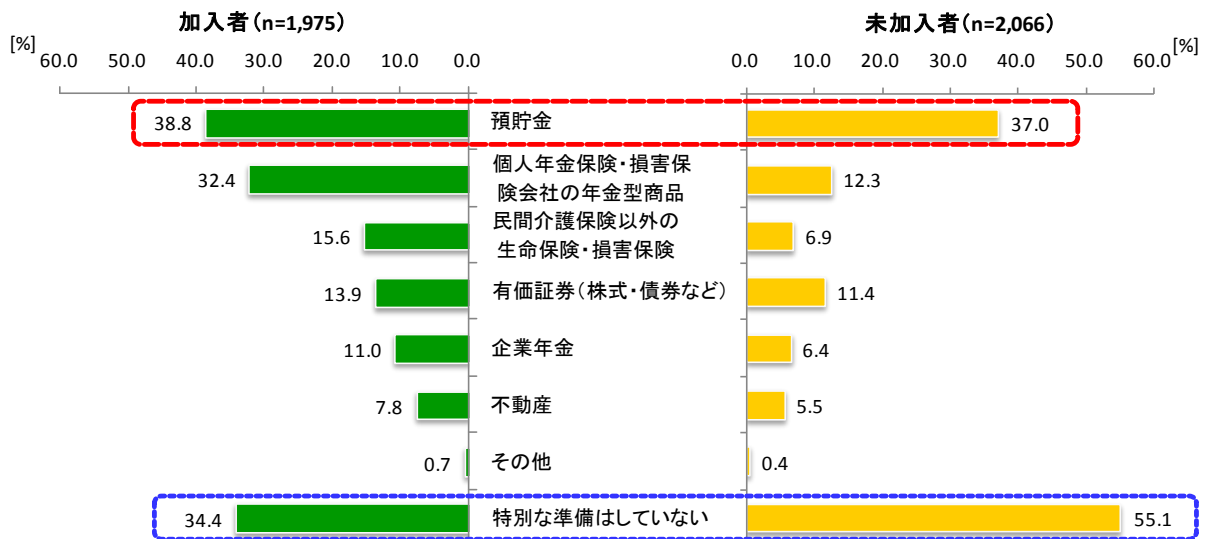


#### (2) 介護に対する現在の経済的準備・今後の準備の意向

自分が要介護状態になった場合に備え、回答者の世帯で公的な保険・年金および民間介護保険以外に準備している手段を尋ねたところ、民間介護保険に加入している人・していない人ともに「預貯金」が最も多く、ともに4割弱でした（両者の割合の差は有意ではありませんでした）。それ以外の準備手段は、すべて民間介護保険に加入している人の方が有意に多い傾向がありました。また、「特別な準備はしていない」人は、民間介護保険に加入している人では3割強、加入していない人では6割弱で、加入していない人の方が有意に多い傾向がありました。

預貯金を中心に準備をする傾向は民間介護保険に加入している人・していない人で共通していますが、加入している人は預貯金以外の手段でも経済的な準備をしているようです。

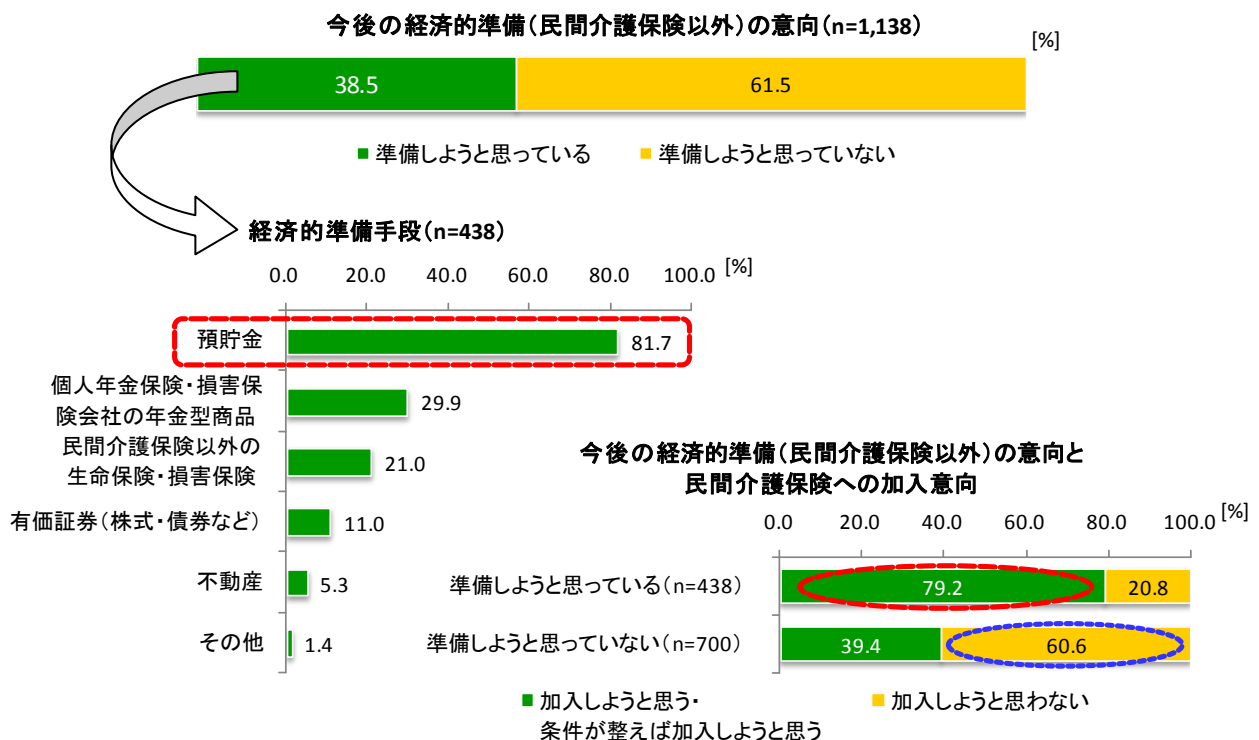
図表 3-2-1 介護に対する現在の経済的準備（民間介護保険以外・複数回答）



「特別な準備はしていない」と回答した民間介護保険に加入していない人に対して、今後民間介護保険以外に何らかの経済的準備をしようと思っているかを尋ねたところ、「準備しようとしている」が約4割、「準備しようと思っていない」が約6割でした。準備しようとしている人にその準備手段を尋ねたところ、最も多かったのが「預貯金」で約8割でした。

準備しようとしている人の約8割は、民間介護保険に加入しよう（「条件が整えば」を含む）と思いましたが、準備しようと思っていない人の約6割は、民間介護保険に加入しようと思いませんでした。

図表 3-2-2 介護に対する今後の経済的準備意向・準備手段（民間介護保険以外・複数回答）



このように、介護に対する経済的準備を現在していない人の4割弱は、今後も何も準備しようと思いません。保険会社としては、介護に対する準備の必要性をお客さまにどれだけ認識していただけるか、その対応力が問われそうです。

### (3) 公的介護保険制度に関する知識

公的介護保険に関する次の①～④の制度について、知っているかどうかを尋ねました。

- ①公的介護保険の保険料は40歳から納付する
- ②40～64歳の方は、加齢に伴う特定の病気が原因で要介護状態になった場合のみ、公的介護保険のサービスが受けられる（交通事故などの場合は受けられない）
- ③要介護認定を受けて住宅改修をする場合、公的介護保険の支給対象となる費用は20万円まで（うち1割は自己負担）である
- ④特別養護老人ホーム（特養）を利用する場合には、食費と居住費は自己負担しなければならない

その結果、いずれの項目についても、民間介護保険に加入している人は加入していない人より「知っていた」と回答する割合が有意に高い傾向が見られました。

民間介護保険だけでなく、公的介護保険制度についてもお客さまに理解を深めていただくことが、民間介護保険への加入につながる可能性もありそうです。

図表 3-3 公的介護保険の各制度について「知っている」と回答した割合

